＜令和２年度研究発表会開催概要＞

日　時:令和２年 11 月 16 日(月)
場　所:ホテルアウィーナ大阪
発表校:大阪市立三稜中学校
テーマ:大自然に触れた信州　～自分たちで計画した金沢班活動～

【重点を置いた活動】
　金沢市内散策を自分たちで計画し、安全に楽しく協力して活動する

(実施要領)
・旅 行 先　長野県信濃町、富山県南砺市・砺波市、石川県金沢市
・時　　期　令和２(2020)年９月１日(火)～3 日(木)
・実施学年　第３学年(5 学級 180 名　引率教員 15 名)

・日程概要
　１日目:新大阪駅(サンダーバード)⇒金沢駅(バス)⇒黒部川ラフティング
　　⇒黒姫ライジングサンホテル
　２日目:ホテル周辺にて体験活動⇒世界遺産五箇山観光⇒ロイヤルホテル富山砺波
　３日目:金沢市内散策(班活動)⇒金沢駅(サンダーバード)⇒新大阪駅(バス)⇒学校

大自然に触れた信州
自分たちで計画した金沢班活動

校長　長吉　紀郎
3年学年主任　有賀　仁美

大阪府　大阪市立三稜中学校

●学校紹介

本校は、大阪市南部の住吉区にあり、昭和二二（1947）年に大阪市立住吉第三中学校として開校し、昭和二四（1949）年に現在の校名、大阪市立三稜（さんりょう）中学校に改名した。「三稜」の由来は、当時、大阪市立墨江小学校、遠里小野（おりおの）小学校、清水丘小学校の三小学校が校区だったことから、「三小学校を礎として結んだ頂点にある学校として発展する」という意味がこめられている。今年で創立73年の伝統ある学校である。

近隣には大阪府立視覚支援学校があり、生徒会役員を中心に年3回（6月、9月、11月）交歓会を行っている。視覚支援学校でブラインドサッカーを一緒に楽しみ、本校の文化祭で一緒に合唱をするなど交流を深めている。

部活動は運動部が7、文化部が5あり、全校生徒の8割が参加している。校訓「誠実　協和」の精神のもと、生徒たちは行事に自主的にまた大変積極的に取り組み、校内に常に元気なあいさつの声が響く活気あふれた学校である。

校舎外観

School Data

【創立年】昭和22（1947）年
【教育目標】
自ら学び、考える力をそなえた心豊かな生徒の育成に努め、生徒・保護者（地域）・教職員が信頼で結ばれ、生き生きと活動する活気あふれる学校を作る。
【所在地】大阪府大阪市住吉区千躰1-5-22
【全校生徒数】549名（3学年とも5学級、特別支援学級は7学級）
【教職員数】　45名

実施要項

●旅 行 先　長野県信濃町、富山県南砺市、砺波市、石川県金沢市
●時　　期　令和2（2020）年9月1日（火）～3日（木）　2泊3日
●実施学年　第3学年（5学級180名　引率教員15名）
●日程概要

【1日目】	新大阪駅（サンダーバード）→金沢駅（バス）→黒部川ラフティング→黒姫ライジングサンホテル
【2日目】	ホテル周辺施設にて体験活動→世界遺産五箇山観光→ロイヤルホテル富山砺波
【3日目】	金沢市内散策（班活動）→金沢駅（サンダーバード）→新大阪駅（バス）→学校

目的地の選定にあたって

移動距離を少なく体験の時間をたっぷり取りたい、また、これまで行ったことのない方面へ挑戦してみようと考え、北陸方面への修学旅行を計画した。石川や富山で活動も民泊もと考えていたが、180名の民泊受け入れ先確保が厳しいとのことで、民泊と体験は長野県信濃町まで足を延ばすこととなった。バスで目的地に到着してしまうのではなく、自分たちで移動することも体験と思い、新大阪駅から集約列車利用での計画とした。4学級程度の人数ならば、北陸のみですべて行うことができ、バスでの移動距離も少なく活動時間をもっと取ることができると思われる。

新型コロナの影響で民泊が実施できなくなり、3日間ともバスでの長距離移動となってしまったが、世界遺産になった五箇山（ごかやま）の合掌造りを見学することができ、金沢市内散策の時間を当初の予定より長く取ることができたので、充実した内容にすることができた。

事前学習

修学旅行に行く準備と雰囲気を盛り上げるため、第2学年の1月から2月にかけて長野県と石川県について調べ学習をし、新聞にまとめ、廊下に貼り出した。また、修学旅行委員会を立ち上げ、修学旅行のモットーを

「し　自然と触れ合い　史上最高の
な　仲間と共に
の　ノリノリで
ま　満喫し
ち　ちゃお！」

と決めた。第3学年になり学校再開後、修学旅行委員会で意見が分かれたルール等について、クラスで話し合いの時間をとった。そこで出た意見を持ち寄り、再度委員会で話し合い、持ち物や行動のルールを決めた。

こういった話し合いや意見交換については、第1学年が「話をよく聞いて、考えて行動しよう　①時間・ルールを守る　②お互いを大切にする」、第2学年は「良い波に乗る・悪い波は止める　①自律する　②何事にも前向きに取り組む」、第3学年では「自分の行き先は自分で決める　①自立する　②最高学年としての自覚を持つ」という学年目標のもと、生徒たちの積極的な行動を支援し、自主的な判断力の向上を目指し指導してきたことが活きたと思われる。

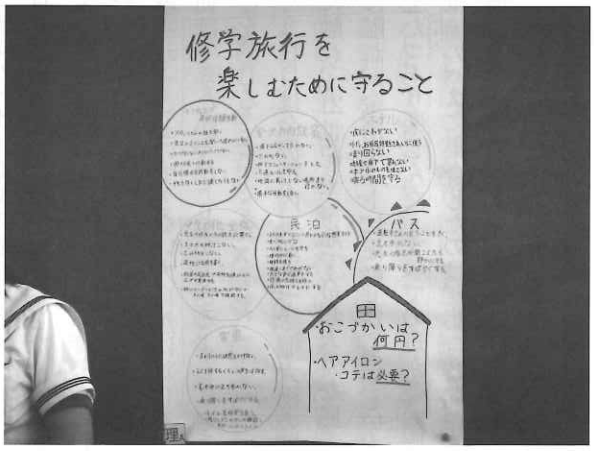
また、2日目の夜に「第3回学年祭」と称し、2時間のレクレーションを企画運営した。これに向けては、第1学年の時から年に1回、「学年祭」を行ってきたことが役立った。学級代表が企画し、当日の司会や音響も分担して行った。歌やダンス、漫才やコントの発表、クイズやゲーム大会など、自分たちで180人をどう動かすかを考えてきたため、その経験を持つ学級代表が中心となって、修学旅行委員会でもスムーズに企画運営を行うことができた。

●重点を置いた活動

金沢市内散策を自分たちで計画し、安全に楽しく協力して活動する

事前学習新聞①

事前学習新聞②



修学旅行委員活動。クラスで意見を集約

3日目、5時間の金沢市内散策をどう過ごすかを、自分たちで計画した。行く場所の選定やその行き方だけでなく、バスを使うか、有料の施設に入るか、昼食をどうするかなどを含め、お金の使い方も考える必要があり、班でタブレットを使って調べながら相談し考えた。

この活動に向けて、第2学年の11月に校外学習として大阪市内散策を班活動で行った。設定された5つのエリアから班で2つを選び、事前に地下鉄の乗り換えや降車駅、周辺地図を確認し、昼食場所を含めたルートを計画した。当日は、指示されたミッションの答えを探し、訪問した記録としてタブレットで写真を撮った。後日、学んできた内容と撮ってきた写真をパワーポイントにまとめ、班ごとにクラスで発表した。

班で協力し自分たちで計画を立てることの楽しさと難しさを感じた事前学習。予定通りに進まない中、どう折り合いをつけて時間内に帰ってくるかに悩んだ当日。多くのことを生徒たちは学んでくれたと感じている。この経験が生きて、修学旅行の班活動の計画や当日の行動はとてもスムーズであった。

班で金沢散策の準備

新型コロナの影響

2月末の学校休業後、3月に入りすぐ業者と相談した結果、修学旅行を5月27日出発から9月1日出発に変更することにして、ホテル等の予約を取り直してもらった。西日本の民泊が中止になる中、信州や岐阜は民泊継続とのことで予定通り進めていたが、7月に入り、ご高齢のため断るご家庭が増え、180名分の受け入れが確保できなくなった旨の連絡が入った。そこから、2日目の午後の活動と宿泊ホテルを、金沢市内もしくは移動途中の富山県で探し、実施要項のとおりになった。

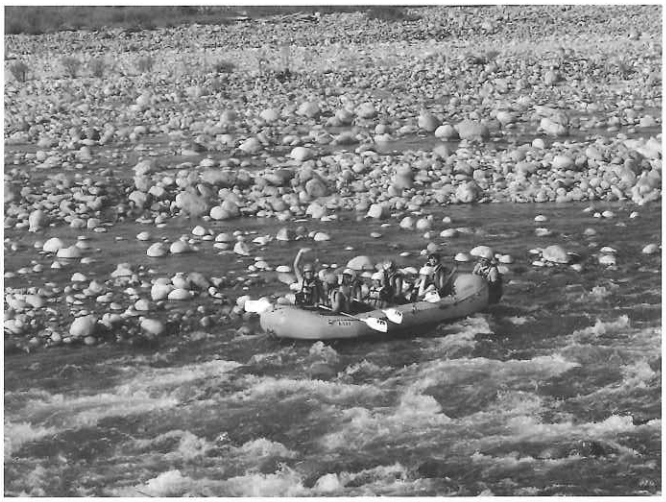
朝夕の検温と体調チェックシートをしおりに入れ、切り取って提出させた。ホテルの1部屋の人数を減らして部屋割りを考え直した。Go Toトラベルを使えるめどがたち、2週間前にバスを4台から5台に増やし、お弁当や補食もつけることになった。

活動内容

1日目、黒部川のラフティングで涼しい風と冷たいきれいな水に触れ、夜は標高800mの信濃町の澄んだ空気を吸いながら、美しい星と満月を堪能した。

2日目、ジップラインやグラススキー、マウンテンバイクで高原の風を切り、ゴルフ場で目に痛いほどの芝生の緑を感じた。渓流釣りでは自分で釣った魚を、ジャム作りでは自分たちで作ったジャムをおいしくいただいた。普段味わうことのできない大自然に親しみ、最初はできなかったことができるようになる喜びを感じることができた。

3日目は金沢市内班活動で、兼六園の歴史に触れ、21世紀美術館で奇想天外な展示物に触れ、金箔ソフトに海鮮丼においしいものをたっぷり楽しんだ。すべての班が兼六園駐車場のバスに集合したのは、集合時間の5分前だった。5時間という長い時間、見知らぬ土地で、自分たちで工夫して協力して活動することができた。



黒部川ラフティング

まとめ

生徒たちの作文を紹介する。

・マウンテンバイクが一番心に残っている。思ったより坂道が急で、これは自転車をこぐより、降りて押した方が楽なんじゃないかと思った。一回も降りずにこぐのは楽しかったけど、しんどかった。コスモスがあたり一面に咲いていてきれいだった。途中で休憩した時、上からみた景色はとてもきれいで、遠くまで見渡せて最高だった。

・学年祭で、あんな風にみんなを盛り上げようとしてくれる人がたくさんいるこの学年が誇らしく、頼りになるなと思いました。そして、歌やダンスの最中に手拍子をしたり、終わったあと拍手がおこったり、すごく温かい環境だなと思いました。中学校3年間では、私は出し物とか何もできなかったけど、高校生になったら、文化祭などで人前に立って、少しでもたくさんの人たちの記憶に残るものを作っていけたらいいなと思います。

・もともと、自分の気持ちを言うのが苦手だったけど、修学旅行委員になって、他の人の気持ちを考えるようになり、発言をする回数が増えました。たくさん発言をすることで、より他人の気持ちを考えるようになり、修学旅行中もこの気持ちを大切にすることで、さらに考えることができました。

信濃町マウンテンバイク

世界遺産五箇山

・2日目のホテルを出る時、(階段の途中に「ありがとうございます。いってらっしゃい。」とメッセージが書かれていて、心がほっこりしました。今この時期に修学旅行に行けていること、バスや電車、ホテルやごはんなどの素晴らしい環境を当たり前だと思わずに、周りの人に感謝をして、これからも生活に活かしていきたいと思います。

・深く印象に残っていることは、2日目の夜に行った学年祭です。発表は毎年とても面白くてすごいですが、それだけではなく、同じ学年の子の知らない一面を知ることができる貴重な時間です。この特別な時間が終わってほしくないと思いましたが、年に1度しかないからこそ、より特別で思い出に残るということに気がつきました。この修学旅行で何よりも忘れてはいけないことは、当たり前にできた修学旅行ではないということだと思います。学校生活での一大行事がなくなってしまった学校もあるというのに、私たちは無事に行えて、本当に良かったです。さまざまな人の協力にとても感謝しています。コロナウイルスは嫌だけれど、そのおかげで、より人の心の温もりを感じられたような気がします。

妙高高原ゴルフ

当日、大阪から来たと伝えた瞬間マスクをされたという経験をした教員もいたが、どちらのホテルでも金沢近江町市場でも「たくさんの生徒さんに利用してもらってとてもうれしい。本当にありがとうございます。」とお礼を言われた。難しい社会状況の中、出発直前まで落ち着かなかったが、快く受け入れていただき気持ちよく過ごすことができた。

たびたび変更があった上、消毒や体調管理に気を使いながらであったが、嫌な顔ひとつせず、その都度変更に対応し積極的に取り組んでくれた生徒たちに感謝したい。本当に充実したすばらしい3日間であった。